SONY

3-210-806-**02**(2)

ホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-SF2000

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

↓

安全のための注意事項を守る

5～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
8ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

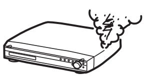
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



→

❶ **電源を切る**

❷ **電源プラグをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

安全のために 2
警告 5
注意 6
電池についての安全上のご注意 7
使用上のご注意 8
この取扱説明書の使いかた 9
付属のリモコンについてのご注意 9
(RM-AAU019)

接続と準備

各部の名前と働き 10
準備1：スピーカーを設置する 18
準備2：スピーカーを接続する 21
準備3：オーディオ/映像機器を接続する 23
準備4：アンテナをつなぐ 28
準備5：本体とリモコンを準備する 29
準備6：自動でスピーカーを設定する 30
（自動音場補正機能）
準備7：スピーカーのレベルとバランスを調節する 35
（TEST TONE）

再生する

つないだ機器を選ぶ 36
つないだ機器の音/映像を楽しむ..........37

アンプを操作する

メニューを使ってアンプを設定する 39
各スピーカーのレベルやバランスを調節する 42
（LEVELメニュー）
フロントスピーカーの音質（低域/高域レベル）を調節する.........................43
（TONEメニュー）
サラウンド効果を調節する 43
（SURメニュー）
ラジオを設定する 44
（TUNERメニュー）
音声を設定する 44
（AUDIOメニュー）
映像を設定する 45
（VIDEOメニュー）
システムを設定する 46
（SYSTEMメニュー）

サラウンド効果を楽しむ

ドルビーデジタルやDTS のサラウンド効果を楽しむ 48
（AUTO FORMAT DIRECT）
ソニーのサラウンド効果を楽しむ 50
音声を2チャンネルで聞く 52
（2CH STEREO）
サラウンド効果をお買い上げ時の設定に戻す 53

ラジオを楽しむ

FM/AMラジオを聞く........................ 54
放送局を登録する 55

その他の操作をする

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える...................................... 58
（IN MODE）
デジタルメディアポートを使う 59
（DMPORT）
選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる 60
（DIGITAL ASSIGN）
スリープタイマーを使う 62

リモコンを使う

お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する 63

次のページへつづく

その他

用語集 64
故障かな？と思ったら........................65
保証書とアフターサービス 68
主な仕様 69
索引..71

⚠警告

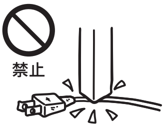


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

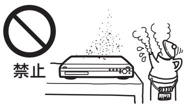
- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

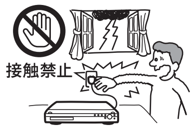
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



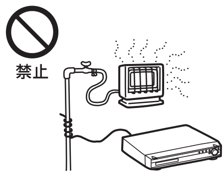
本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

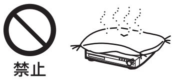
ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



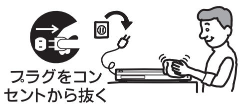
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

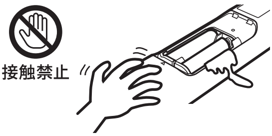
液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。



液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

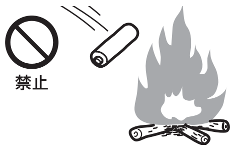
➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



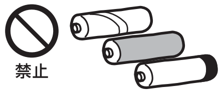
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

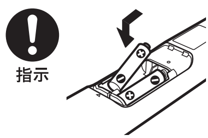
電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

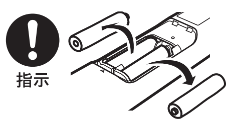
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機の上に重いものを置かないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。

本機はドルビー＊デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

＊ ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

**DTS, Inc. からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Inc. の商標です。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。
HDMI、HDMIロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

「x.v.Color」はソニーの商標です。

付属のリモコンについてのご注意

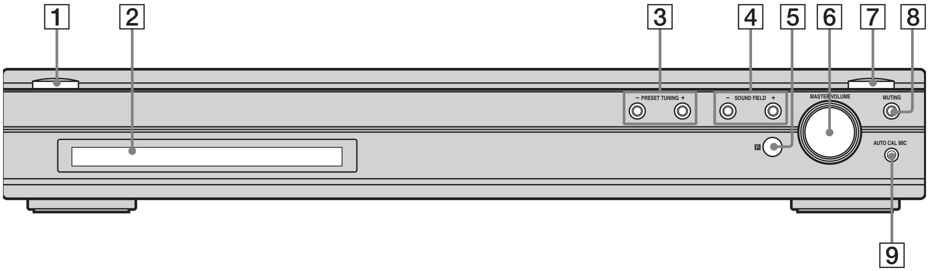
(RM-AAU019)

リモコンのVIDEO 3ボタンは、本機の操作には使えません。

各部の名前と働き

本体

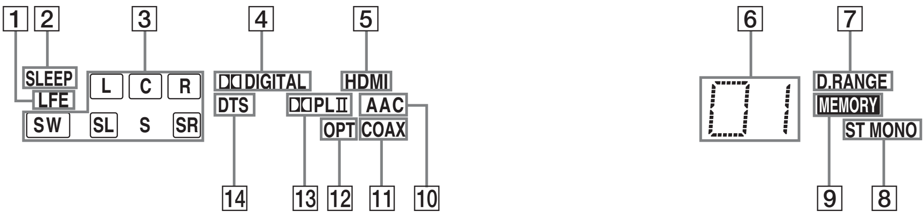
本体前面

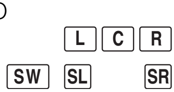


名称	働き
1 I/⏻（電源オン/スタンバイ）	本機の電源を入/切します（29、37、38、53ページ）。
2 表示窓	選んだ機器の状態や、選択できる項目などを表示します（11ページ）。
3 PRESET TUNING +/–	登録したラジオの放送局の中から、聞きたい放送局を選びます（56ページ）。
4 SOUND FIELD +/–	サウンドフィールドを選びます（48、50、52、53ページ）。
5 リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
6 MASTER VOLUMEつまみ	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（35、36、37、38ページ）。
7 INPUT SELECTOR	再生する入力ソースを選びます（36、37、38、54、55、56、65ページ）。

名称	働き
8 MUTING	消音機能を有効にします（36ページ）。
9 AUTO CAL MIC端子	自動音場補正機能で使用する付属のマイクをつなぎます（30ページ）。

表示窓に点灯する項目と働き



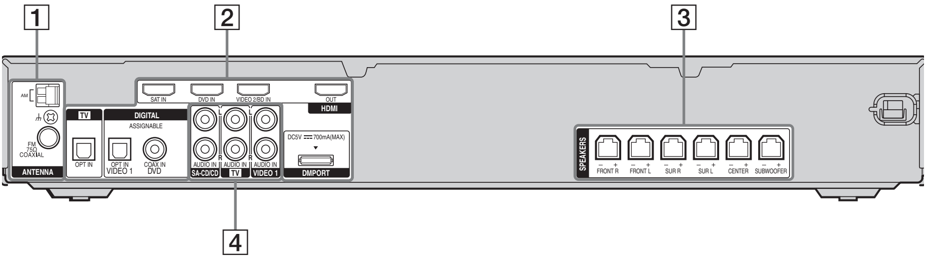
名称	働き
1 LFE	入力信号にLFE（重低音効果）のチャンネルが存在しているときや、実際にLFE信号の音が再生されているときに「LFE」の文字が点灯します。
2 SLEEP	スリープタイマーが働いているときに点灯します（62ページ）。
3 **再生チャンネル表示**	現在本機が出力しているチャンネルを表示します。 文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SW	サブウーファー
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分） **例：** 記録形式（フロント/サラウンド）：3/2.1 サウンドフィールド：A.F.D. AUTO 
4 DDDIGITAL	ドルビーデジタルサラウンド信号をデコードしているときに点灯します。 **ご注意** • ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していることを確認してください。

名称	働き
5 HDMI	再生する機器が本機のHDMI端子に接続されているときに点灯します（26ページ）。
6 **プリセット番号表示**	登録したラジオの放送局を聞いているときに点灯します。放送局の登録について詳しくは、55ページをご覧ください。
7 D.RANGE	ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します（40ページ）。
8 **チューナー表示**	ラジオを聞いているときなどに点灯します（54ページ）。
9 MEMORY	プリセットなどの、メモリー機能が働いたときに点灯します（55ページ）。
10 AAC	MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。 **ご注意** • MPEG-2 AACは、アルゴリズム：（LC（Low Complexity））にのみ対応しています。
11 COAX	AUDIOメニューの「IN MODE」を「AUTO IN」に設定していて、デジタル信号がCOAX IN端子から入力されているとき、またはIN MODEが「COAX IN」に設定されているときに点灯します（58ページ）。
12 OPT	AUDIOメニューの「IN MODE」を「AUTO IN」に設定していて、デジタル信号がOPT IN端子から入力されているとき、またはIN MODEが「OPT IN」に設定されているときに点灯します（58ページ）。

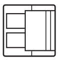
次のページへつづく

名称	働き
13 ⅅⅅPL (II)	2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力しているときに点灯します。 また、プロロジックIIのムービー /ミュージックモード処理を行っているときにも点灯します。
14 DTS	DTS信号をデコードしているときに点灯します。 **ご注意** • DTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していることを確認してください。

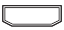
本体後面



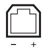
1 アンテナ入力部

	AMアンテナ端子	付属のAMループアンテナをつなぎます（28ページ）。
	FM75Ω同軸アンテナ端子	付属のFMワイヤーアンテナをつなぎます（28ページ）。

2 デジタル入出力部

	OPT IN（光）デジタル音声入力端子	DVDプレーヤーなどをつなぎます。COAX INのほうがより高音質です（24ページ）。
	COAX IN（同軸）デジタル音声入力端子	
	HDMI入出力端子	DVDプレーヤー、衛星放送チューナーなどをつなぎ、映像と音声をテレビやプロジェクターなどに出力します（26ページ）。
	デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）	デジタルメディアポートアダプターをつなぎます（59ページ）。デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

3 スピーカー出力部



スピーカーをつなぎます（21ページ）。
スピーカー端子の色は、それぞれ以下のとおりです。

スピーカー端子	色
FRONT R（フロントスピーカー右）	赤
FRONT L（フロントスピーカー左）	白
SUR R（サラウンドスピーカー右）	灰
SUR L（サラウンドスピーカー左）	青
CENTER（センタースピーカー）	緑
SUBWOOFER（サブウーファー）	紫

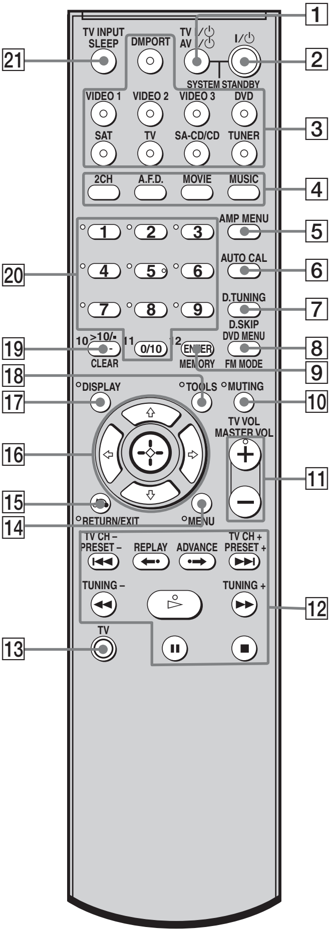
4 音声入力部

	音声入力端子	スーパーオーディオCDプレーヤーやCDプレーヤーなどをつなぎます（23、24ページ）。

リモコン

付属のリモコンを使って、本機の操作ができます。また、リモコンに登録したソニー製機器を操作できます（63ページ）。

RM-AAU019



リモコンのボタン	機能
1 TV I/⏻（電源オン/スタンバイ）	TV I/⏻とTV（13）を同時に押して、テレビの電源を入/切します。
AV I/⏻（電源オン/スタンバイ）	リモコンに登録したソニー製機器の電源を入/切します。AV I/⏻とI/⏻（2）を同時に押すと、本機と、他のソニー製オーディオ/映像機器の電源を切ります（SYSTEM STANDBY）。 **ご注意** • AV I/⏻の機能は、入力切り換え用ボタン（3）を押すたびに自動的に切り換わります。
2 I/⏻（電源オン/スタンバイ）	本機の電源を入/切します。すべての機器の電源を切るときは、I/⏻とAV I/⏻（1）を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。
3 入力切り換え用ボタン	使用する機器を選びます。入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるよう、以下のとおり設定されています。 設定を変更するには、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（63ページ）をご覧ください。

ボタン	選ばれている機器
VIDEO 1	ビデオデッキ（リモコンモード：VTR 3）
VIDEO 2	ビデオデッキ（リモコンモード：VTR 2）
VIDEO 3	なし
DVD	DVDプレーヤー
SAT	BS/CSチューナー
TV	テレビ
SA-CD/CD	スーパーオーディオCD/CDプレーヤー
TUNER	ラジオ
DMPORT	デジタルメディアポートアダプター＊

＊ デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

リモコンのボタン	機能
4 2CH	2CH STEREOモードを選びます。
A.F.D.	A.F.D.モードを選びます。
MOVIE	サウンドフィールドを選びます（MOVIE）。
MUSIC	サウンドフィールドを選びます（MUSIC）。
5 AMP MENU	メニューを表示窓に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕（16）を使ってメニュー操作を行います。
6 AUTO CAL	自動音場補正機能を有効にします（31ページ）。
7 D.TUNING	放送局を手動受信するモードにします。
D.SKIP	マルチディスクチェンジャーを使っているときに、ディスクを選びます。
8 DVD MENU	DVDのメニューをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕（16）を使ってメニュー操作を行います。
FM MODE	FM放送を、モノラルまたはステレオに切り換えます。
9 12	12とTV（13）を同時に押すと、テレビのチャンネルを12に切り換えます。
ENTER	数字ボタンでチャンネルやディスク、トラックを選んだあとに、押して決定します。
MEMORY	放送局を登録します。
10 MUTING	消音機能を有効にします。MUTINGとTV（13）を同時に押すと、テレビの消音機能を有効にします。
11 TV VOL +*1/–	TV VOL +/–とTV（13）を同時に押して、テレビの音量を調節します。
MASTER VOL +*1/–	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。
12 TV CH +/–	TV CH +/–とTV（13）を同時に押して、登録したテレビのチャンネルを選びます。

リモコンのボタン	機能
PRESET +/–	登録したラジオの放送局、または登録したビデオデッキおよび衛星放送チューナーのチャンネルを選びます。
⏮/⏭*2	CDプレーヤーおよびDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの再生中に押すと、前または次のトラックを再生します。
REPLAY ←· / ADVANCE ·→	ビデオデッキおよびDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーで、前の場面を再生したり、現在の場面を早送りします。
TUNING +/–	放送局を受信します。
⏪/⏩*2	• DVDプレーヤーで、前または次のトラックをサーチします。 • ビデオデッキおよびCDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーで、早戻しまたは早送りをします。
▷*1*2	ビデオデッキおよびCDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーで、再生を始めます。
❚❚*2	ビデオデッキおよびCDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーで、再生または録画を一時停止します。 また、録画スタンバイ状態の機器の録画を始めます。
■*2	ビデオデッキおよびCDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーで、再生を止めます。
13 TV	TVを押しながら、オレンジ色のマークのボタンを同時に押すと、それぞれのボタンの操作を有効にします。

次のページへつづく

リモコンのボタン	機能
[14] MENU	ビデオデッキおよびDVDプレーヤー、衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダーのメニューをテレビ画面に表示させるときに押します。 MENUとTV（[13]）を同時に押すと、テレビのメニューを表示します。 ↑/↓/←/→/⊕（[16]）を使ってメニュー操作を行います。
[15] RETURN/EXIT	ビデオデッキおよびDVDプレーヤー、衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダーのメニューやガイドがテレビ画面に表示されている場合、前のメニューに戻るときやメニュー画面を抜けるときに押します。 テレビのメニューがテレビ画面に表示されている場合、前のメニューに戻るときやメニュー画面を抜けるときにRETURN/EXITとTV（[13]）を同時に押します。
[16] ⊕ ↑/↓/←/→	AMP MENU（[5]）またはDVD MENU（[8]）、MENU（[14]）を押したあと、↑/↓/←/→を押して設定を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。 本機およびビデオデッキ、CDプレーヤー、DVDプレーヤー、衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダーで、選択を決定するときにも⊕を押します。
[17] DISPLAY	テレビ画面に表示されるビデオデッキおよびCDプレーヤー、DVDプレーヤー、衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダーの情報を切り換えます。 DISPLAYとTV（[13]）を同時に押すと、テレビ画面に表示されるテレビの情報を切り換えます。
[18] TOOLS	本機に接続した機器のオプションメニューを表示します。 TOOLSとTV（[13]）を同時に押すと、テレビのオプションメニューを表示します。
[19] >10/.	CDプレーヤーの11以上の番号のトラックを選びます。また、デジタルCATVチューナーのチャンネルを選びます。
10(-/--)	10(-/--)とTV（[13]）を同時に押して、テレビのチャンネルを10チャンネルに切り換えます。
CLEAR	数字ボタンを間違えて押したときに、取り消すことができます。
[20] **数字ボタン**＊1	• ラジオのプリセット番号や、周波数の入力ができます。 • CDプレーヤーやDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーのトラックを選びます。トラック番号10を選ぶときは、0/10を押します。 • ビデオデッキや衛星放送チューナーのチャンネルを選びます。 • 数字ボタンとTV（[13]）を同時に押して、テレビのチャンネルを選びます。
[21] TV INPUT＊3	TV INPUTとTV（[13]）を同時に押して、入力信号を選びます（テレビ入力またはビデオ入力）。
SLEEP	スリープタイマーを使って本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します。

＊1 数字ボタンの5およびMASTER VOL ＋、TV VOL ＋、▷には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

＊2 これらのボタンを使って、デジタルメディアポートアダプターの操作ができます。ボタンの機能について詳しくは、デジタルメディアポートアダプターの取扱説明書をご覧ください。

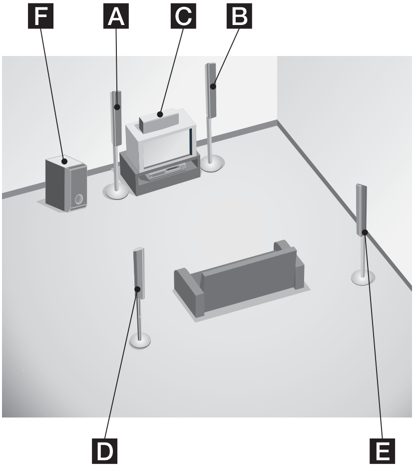
＊3 入力切り換え用ボタン（[3]）でTVを選んでいるとき、TV INPUTとして動作します。

ご注意

- リモコンのVIDEO 3ボタンは、本機の操作には使えません。
- 機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。

準備1：スピーカーを設置する

本機では最大5.1チャンネルのスピーカーシステムを構成できます。映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）とサブウーファーが必要です（5.1チャンネル）。



A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F サブウーファー

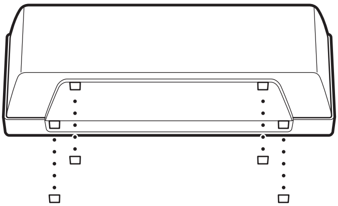
ちょっと一言

- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

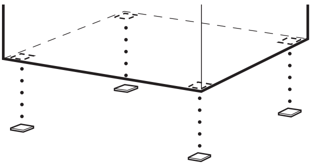
スピーカーを平らな所に設置する

スピーカーを設置する前に、センタースピーカーとサブウーファーが振動で動かないように、底面の四隅に付属のスピーカーパッドを貼ってください。

センタースピーカー



サブウーファー



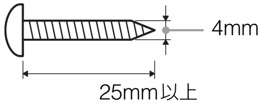
スピーカーをスタンドに取り付ける

スピーカーを付属のスタンドに取り付けて、設置することができます。
詳しくは、付属の「スピーカースタンド設置ガイド」をご覧ください。

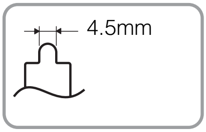
スピーカーを壁に取り付ける

スピーカーを壁に取り付けることができます。

1 スピーカー背面の穴に合うネジ（別売り）を用意する。

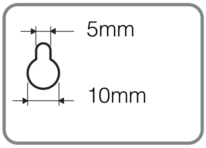


フロント/サラウンドスピーカー



スピーカー背面の穴

センタースピーカー

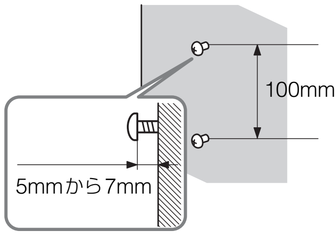


スピーカー背面の穴

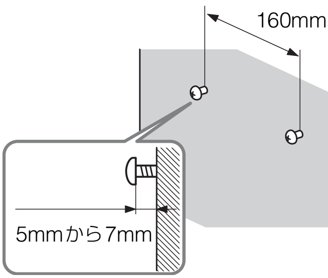
2 壁にネジをとめる。

ネジが壁から5mmから7mm突き出すようにとめてください。

フロント/サラウンドスピーカー



センタースピーカー

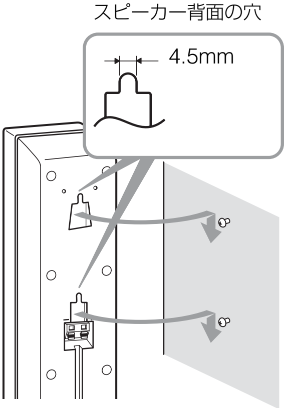


接続と準備

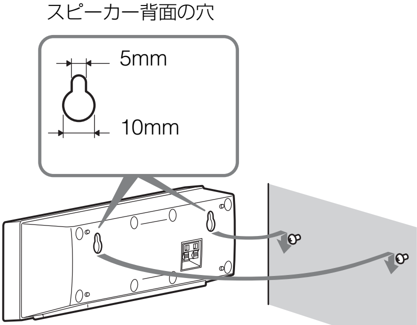
次のページへつづく

3 スピーカー背面の穴をネジにかける。

フロントサラウンドスピーカー



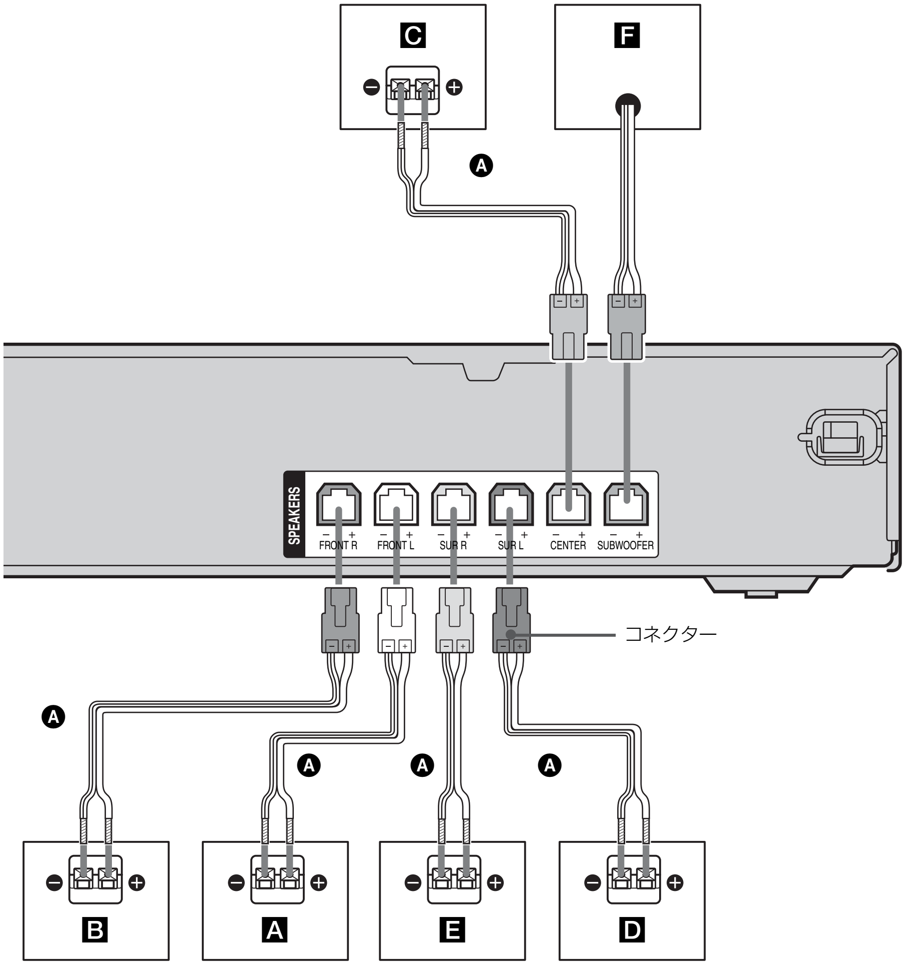
センタースピーカー



ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。
- スピーカーを壁に取り付ける場合、付属のスタンドを取り付ける必要はありません。

準備2：スピーカーを接続する



A スピーカーコード（付属）

A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F サブウーファー

次のページへつづく

スピーカーコードについてのご注意

スピーカーコードのコネクターは、つなぐスピーカー端子のカラーラベルと同じ色になっています。スピーカーコードをつなぐときは、必ずスピーカーコードのコネクターを、コネクターと同じ色のスピーカー端子につないでください。

コネクター	スピーカー端子
赤	FRONT R （フロントスピーカー右）
白	FRONT L （フロントスピーカー左）
灰	SUR R （サラウンドスピーカー右）
青	SUR L （サラウンドスピーカー左）
緑	CENTER （センタースピーカー）
紫	SUBWOOFER （サブウーファー）

スピーカーについてのご注意

正しくスピーカーをつなぐために、スピーカー背面または底面のスピーカーラベルの文字*で、スピーカーの種類を確認してください。

スピーカーラベルの文字	スピーカーの種類
L	フロントスピーカー左
R	フロントスピーカー右
SL	サラウンドスピーカー左
SR	サラウンドスピーカー右

* センタースピーカーおよびサブウーファーには、スピーカーラベルの文字がありません。

準備3：オーディオ/映像機器を接続する

お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

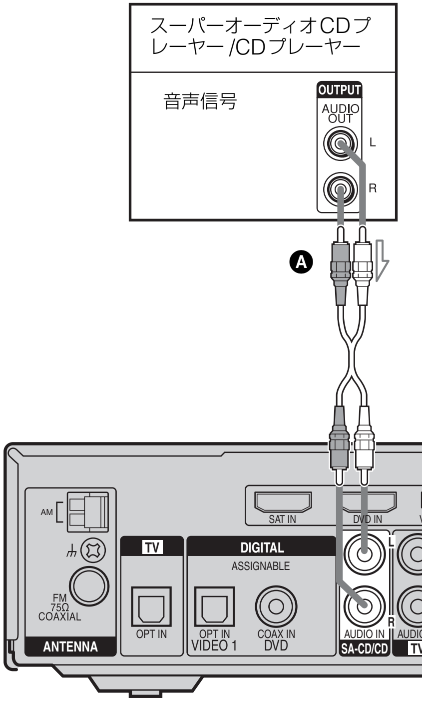
本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。
すべての接続が終わったあと、「準備4：アンテナをつなぐ」（28ページ）へ進んでください。

接続機器一覧

接続機器	説明ページ
オーディオ機器 • スーパーオーディオCDプレーヤー /CDプレーヤー	23ページ
映像機器 • DVDプレーヤー /DVDレコーダー • ブルーレイディスクレコーダー • 衛星放送チューナー /STB（セットトップボックス） • ビデオデッキ • テレビ	24ページ
HDMI端子のある機器	26ページ

オーディオ機器を接続する

スーパーオーディオCDプレーヤー /CDプレーヤーなどの接続例です。



Ⓐ 音声コード（別売り）

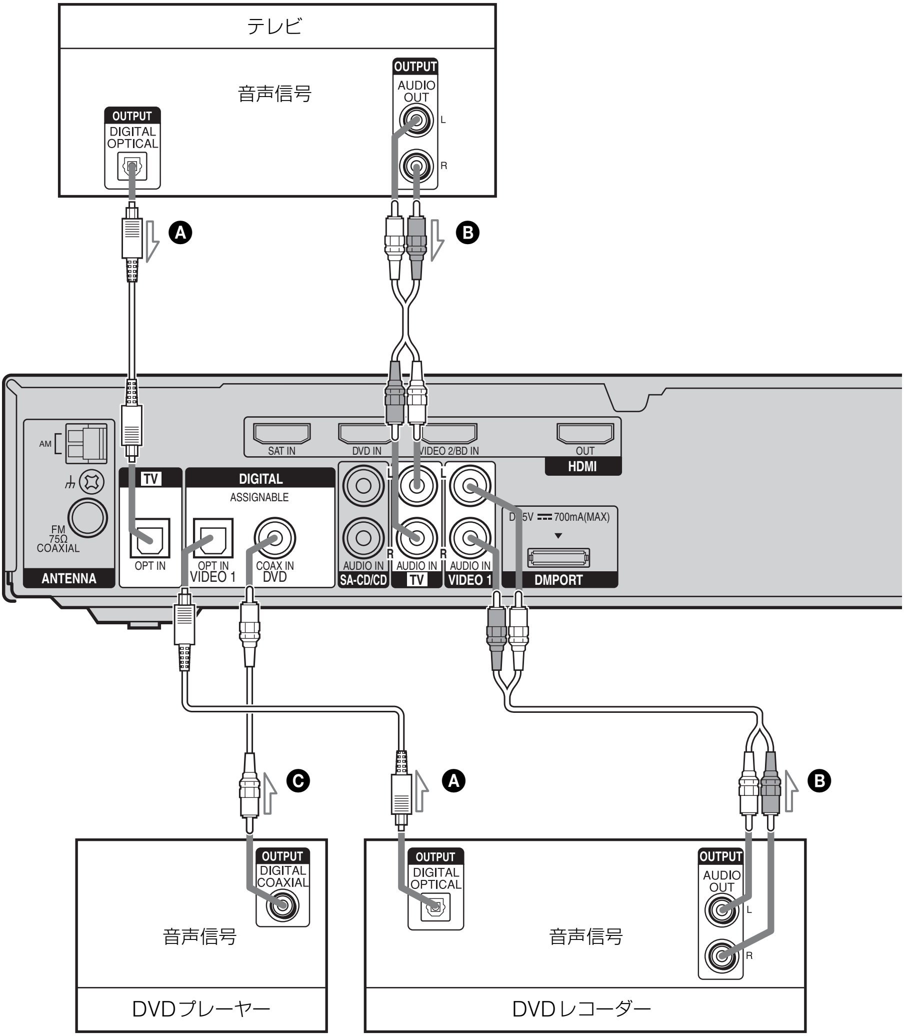
次のページへつづく

映像機器を接続する

DVDプレーヤーやDVDレコーダーなどの接続例です。

DVDレコーダーを接続したときは

本機のリモコンでDVDレコーダーを操作するために、VIDEO 1入力の設定を変更してください。詳しくは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（63ページ）をご覧ください。



Ⓐ 光（OPTICAL）デジタル接続コード（付属）
Ⓑ 音声コード（別売り）
Ⓒ 同軸（COAXIAL）デジタル接続コード（別売り）

ご注意

- 本機を介して、DVDレコーダーやビデオデッキの録画をすることはできません。詳しくは、DVDレコーダーやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。
- マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVDプレーヤー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- 本機には、DVD用のアナログ音声入力端子がありません。DVDプレーヤーは、本機のDIGITAL DVD COAX IN端子につないでください。音声をフロントスピーカー左/右およびサブウーファーからのみ出力するときは、リモコンの2CHボタンを押してください。
- 光（OPTICAL）デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光（OPTICAL）デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

- 本機のDIGITAL音声入力端子はすべて、32kHz、44.1kHz、48kHz、96kHz のサンプリング周波数に対応しています。

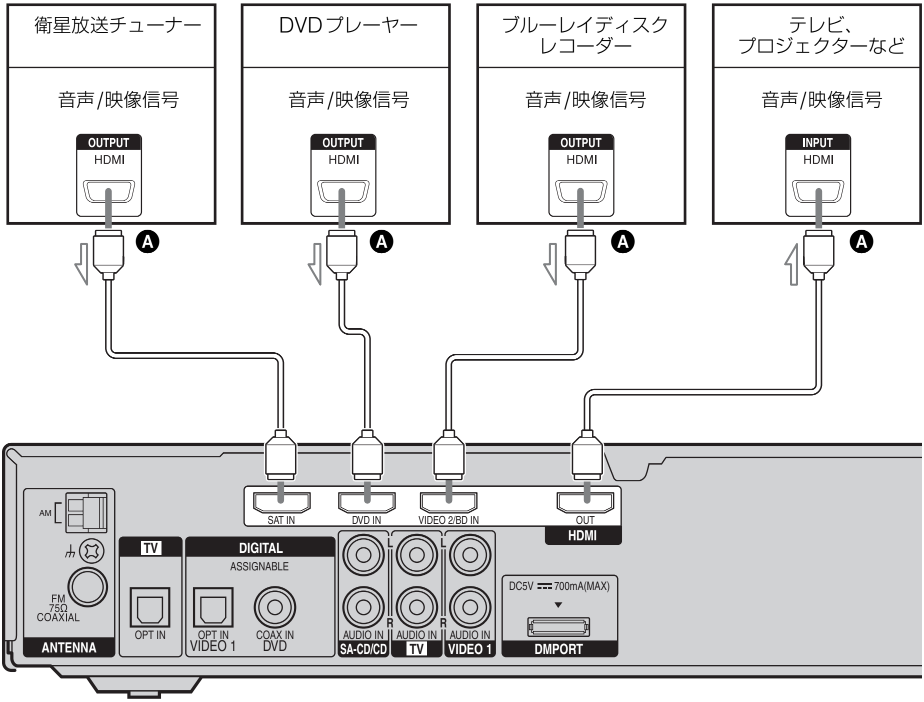
次のページへつづく

HDMI端子のある機器を接続する

HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。

HDMI接続でできること

HDMIで転送されたデジタル音声信号を、本機につないだスピーカーから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。



Ⓐ HDMIケーブル（別売り）
ソニー製HDMIケーブルのご使用をおすすめします。

ブルーレイディスクレコーダーを接続したときは

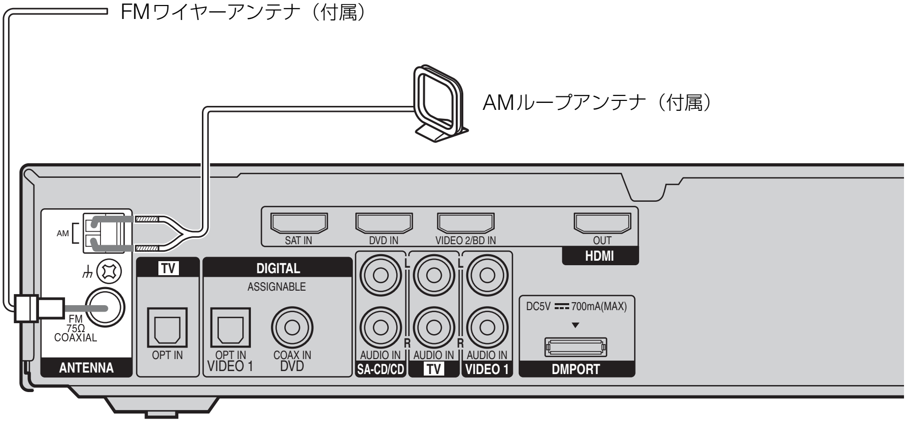
本機のリモコンでブルーレイディスクレコーダーを操作するために、VIDEO 2入力の設定を変更してください。詳しくは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（63ページ）をご覧ください。

HDMI接続のご注意

- 高画質をお楽しみいただくためには、HDMIロゴがついたケーブルが必要です。ソニー製のHDMIケーブルを推奨します。
- HDMI Licensing LLCで認証されたHDMIロゴつきのケーブルをお使いください。
- HDMI IN端子に入力された音声信号はスピーカー出力、HDMI OUT端子から出力されます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。
- テレビのスピーカーから音声を出すときは、VIDEOメニューの「AUDIO」を「TV+AMP」に設定してください（45ページ）。マルチチャンネルのソフトが再生できない場合は、「AMP」に設定してください。「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。
- スーパーオーディオCDのマルチ/ステレオエリアの音声は出力されません。
- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数が切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- HDMI接続で96kHzマルチチャンネルの音声を出力するときは、再生機器の映像信号の解像度を720pまたは1080iに設定してください。
- HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。
- 本機につないだ機器のHDMIの設定について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

準備4：アンテナをつなぐ

ラジオを聞くために、付属のAMループアンテナおよびFMワイヤーアンテナをつなぎます。



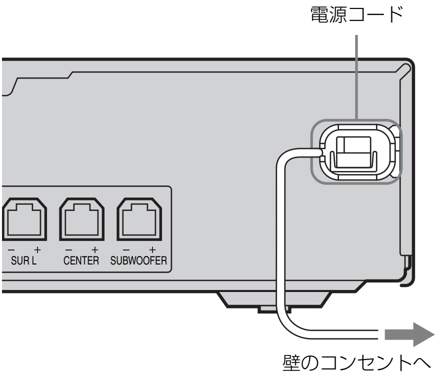
ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平に置いてください。

準備５：本体とリモコンを準備する

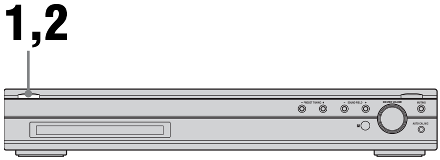
電源コードをつなぐ

電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。



本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。
本体のボタンを使って操作してください。



1 I/⏻（電源）を押して、本機の電源を切る。

2 I/⏻（電源）を約5秒間押し続ける。

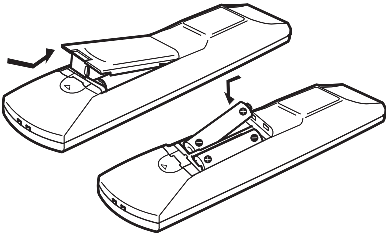
「CLEARING」が表示窓に表示されたあと、「CLEARED」と表示されます。
下記がお買い上げ時の状態に戻ります。

- 「LEVEL」、「TONE」、「SUR」、「TUNER」、「AUDIO」、「VIDEO」、「SYSTEM」、「A. CAL」の各メニューで設定した内容。
- 入力および放送局ごとに登録したサウンドフィールド。
- 全てのサウンドフィールドのパラメーター。
- 全ての登録した放送局。
- MASTER VOLUMEは「VOL MIN」に設定されます。
- 入力は「DVD」に設定されます。

次のページへつづく

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに、単3乾電池（付属）2個を入れます。



ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使用途中の乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と、種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや腐食を防ぐため、乾電池を取り出してください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（63ページ）。

ちょっと一言

- 乾電池の寿命は、通常約3ヶ月です。リモコンで本機を操作できなくなったら、新しい乾電池に交換してください。

準備6：自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって、自動的に以下の項目を測定します。

- 各スピーカーと本機の接続
- スピーカーのレベル
- スピーカーの距離
- スピーカーの極性
- 周波数特性＊

＊ サンプリング周波数が96kHzより高い信号を受信しているときは、測定結果は反映されません。

D.C.A.C.機能によって、自動的に最適な音声バランスを設定します。
なお、手動でお好みのスピーカーのレベルとバランスを設定することもできます。詳しくは、「準備7：スピーカーのレベルとバランスを調節する」（35ページ）をご覧ください。

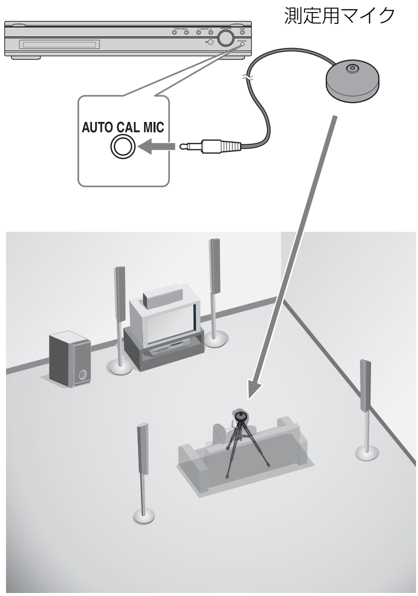
測定の準備をする

スピーカーを設置、接続してから、測定してください（18、21ページ）。
測定の前に、以下についてご注意ください。

- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。

ご注意

- 消音機能を設定していても、測定が始まると自動的に解除されます。



1 測定用のマイク（付属）を本機前面のAUTO CAL MIC端子につなぐ。

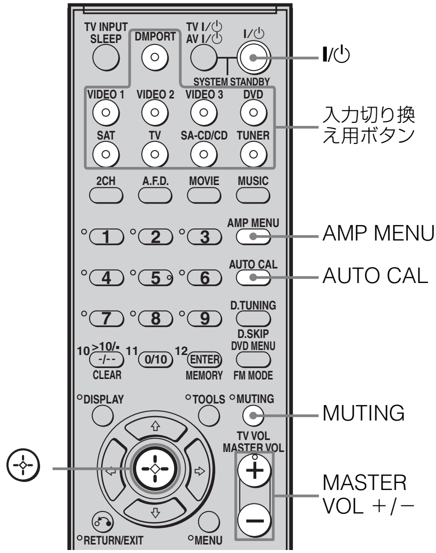
2 マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。

ちょっと一言

- スピーカーをマイクの方へ向けると、さらに正確な測定をすることができます。

測定する



AMP MENUを押してから、AUTO CALを押す。

A. CALメニューの「A. CAL YES」を選んで、測定することもできます。
表示窓に以下が表示されます。
A. CAL [5] → A. CAL [4] → A. CAL [3] → A. CAL [2] → A. CAL [1]
測定時間は約30秒です。測定が始まると、以下の項目が表示されます。

測定項目	表示
スピーカーの有無	TONE
スピーカーの増幅率、距離、周波数特性	T.S.P.
サブウーファーの増幅率、距離	WOOFER

ご注意

- サラウンドスピーカーの高さ情報は測定できません。SYSTEMメニューの「SUR POS.」で設定してください（41ページ）。

次のページへつづく

ちょっと一言
- 測定が始まったら、測定の妨げにならないよう、スピーカーやリスニングポジションから離れてください。測定中はテスト信号がスピーカーから出力されます。
- 正確な測定をするため、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

測定を中止するには

測定中に以下の操作をすると、測定が中止されます。

ー I/⏻ またはMUTINGを押す。

ーリモコンの入力切り換え用ボタンまたは本体のINPUT SELECTORを押す。

ーボリュームを変更する。

ーAUTO CALをもう一度押す。

測定結果を確認/保存する

1 測定結果を確認する。

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

測定結果	表示	説明
正常に測定が終了したとき	SAVE	手順2へ進んでください。
正常に測定できなかったとき	ERROR XXXX	「エラーが出たときは」(32ページ)をご覧ください。

2 ↑/↓ を繰り返し押して項目を選び、⊕を押す。

項目	説明
RETRY	再測定します。
SAVE	測定した設定を保存し、終了します。
WARN CHK	測定結果の注意事項を表示します。「「WARN CHK」を選んだときは」(33ページ)をご覧ください。
PHASE	各スピーカーの位相(正相/逆相)を表示します。「「PHASE」を選んだときは」(33ページ)をご覧ください。
DISTANCE	スピーカーの距離の測定結果を表示します。
LEVEL	スピーカーのレベルの測定結果を表示します。
EXIT	測定した設定を保存しないで終了します。

3 測定結果を保存する。

手順2で「SAVE」を選びます。

測定結果が保存されます。

エラーが出たときは

エラー原因の対策をして、再測定してください。

エラーの種類	原因と対策
ERROR 32	スピーカーが検出されませんでした。測定用のマイクが正しく接続されていることを確認し、再測定してください。接続されている場合は測定用マイクが断線していることが考えられます。
ERROR F 33	• フロントスピーカーが接続されていない、またはフロントスピーカーが1本しか接続されていません。 • 測定用マイクが接続されていません。
ERROR SR 33	左か右どちらかのサラウンドスピーカーが接続されていません。
ERROR SW 33	サブウーファーが接続されていません。サブウーファーを本体後面のSUBWOOFER端子に接続してください。

エラーの種類	原因と対策
ERROR 33	ノイズにより、スピーカーが誤って検出されました。測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。

エラーを修正するには

1 エラーコードを記録する。
2 ⊕を押して、「RETRY Y」を表示させる。
3 エラーの原因を修正する。
詳しくは、「エラーが出たときは」（32ページ）をご覧ください。
4 ⊕を押して、再測定する。

「WARN CHK」を選んだときは

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

⊕を押して、「測定結果を確認/保存する」の手順2に戻る。

WARNINGの種類	説明
WARN 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
WARN 41	測定用マイクからの入力が過大です。これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
WARN 42	本機のボリュームが過大です。これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
WARN 43	サブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
NO WARN	WARNING情報はありません。

「PHASE」を選んだときは

各スピーカーの位相（正相、逆相）を確認できます。

↑/↓を繰り返し押してスピーカーを選び、⊕を押して「測定結果を確認/保存する」の手順2に戻る。

表示	説明
■■* IN	正相です。
■■* OUT	逆相です。スピーカーの＋/－端子が逆に接続されている可能性があります。

＊ ■■部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。
FL フロントスピーカー（左）
FR フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
SL サラウンドスピーカー（左）
SR サラウンドスピーカー（右）
SW サブウーファー

ちょっと一言

- サブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

測定が終わったら

測定用のマイクを抜いてください。

ご注意

- スピーカーの設置位置を変更したときは、測定をやり直してください。

次のページへつづく

A. CALメニューのパラメーターについて

A. CALメニューを使って、自動音場補正機能をお好みにあわせて設定することができます。

メニューから「8-A. CAL」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（39ページ）および「メニュー一覧」（40ページ）をご覧ください。

■ AUTO CAL（自動音場補正機能の有効/無効）

- A. CAL NO
  自動音場補正機能を無効にします。
- A. CAL YES
  自動音場補正の測定を開始します。

■ CAL LOAD（測定値の読み込み）*

- LOAD YES
  保存された測定値を読み込むときに選びます。
- LOAD NO
  保存された測定値を読み込みたくないときに選びます。

* すでに保存された測定値がある場合のみ、この項目を選ぶことができます。

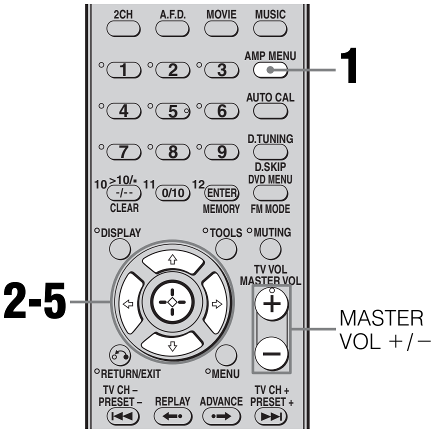
準備7：スピーカーのレベルとバランスを調節する

（TEST TONE）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節できます。

ちょっと一言

- 本機は中心周波数800Hzのテストトーンを採用しています。



1 AMP MENUを押す。

「1-LEVEL」が表示窓に表示されます。

2 ⊕または➡で決定する。

3 ⬆/⬇を繰り返し押して、「T. TONE」を選ぶ。

4 ⊕または➡で決定する。

5 ⬆/⬇を繰り返し押して、「T. TONE Y」を選ぶ。

各スピーカーから以下の順番でテストトーン（ザーッという音）が出力されます。

フロント（左）→センター→フロント（右）→サラウンド（右）→サラウンド（左）→サブウーファー

6 すべてのスピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように、LEVELメニューを使って各スピーカーのレベルとバランスを調節する。

詳しくは、「各スピーカーのレベルやバランスを調節する」（42ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

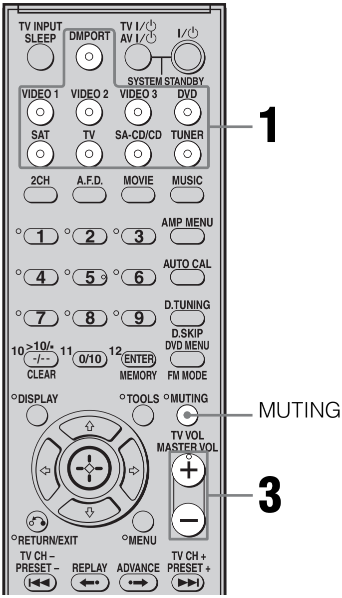
- すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、リモコンのMASTER VOL＋/－または本体のMASTER VOLUMEつまみで調節します。
- スピーカーのレベルとバランスを調整している間は、調整した値が表示窓に表示されます。

テストトーンを止めるには

手順1 ～ 5を行い、手順5で「T. TONE N」を選びます。

再生する

つないだ機器を選ぶ



1 入力切り換え用のボタンを押す。

または、本体のINPUT SELECTORを押します。

選んだ入力が表示窓に表示されます。

選んだ入力 [表示]	再生する機器
DMPORT [DMPORT]	DMPORT端子につないだデジタルメディアポートアダプター *
VIDEO 1 [VIDEO 1]	VIDEO 1端子につないだビデオデッキなど
VIDEO 2 [VIDEO 2/BD]**	VIDEO 2/BD端子につないだブルーレイディスクレコーダーなど
DVD [DVD]	DVD端子につないだDVDプレーヤーなど
SAT [SAT]	SAT端子につないだ衛星放送チューナーやSTB（セットトップボックス）など
TV [TV]	TV端子につないだテレビなど
SA-CD/CD [SA-CD/CD]	SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCD/CDプレーヤーなど
TUNER [FMまたはAM]	内蔵ラジオチューナー

* デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

** [VIDEO 2/BD]はスクロールして、[VIDEO 2]が表示されます。

2 アンプにつないだ機器の電源を入れ、再生する。

3 MASTER VOL +/−を押して、音量を調節する。

または本体のMASTER VOLUMEつまみを回します。

音を一時的に消したいときは

リモコンのMUTINGを押します。

消音機能を解除するには、以下の操作をしてください。

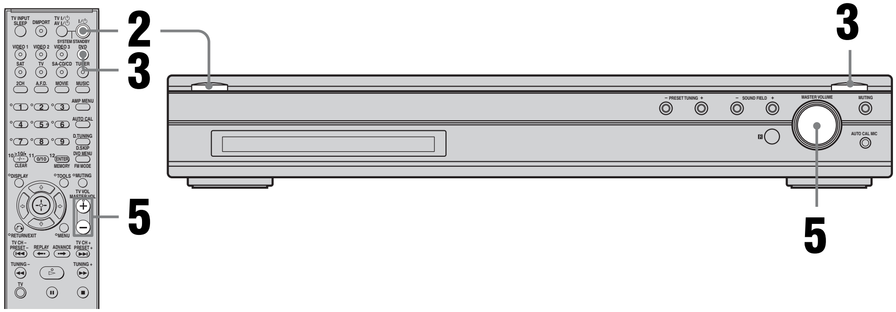
- MUTINGをもう一度押す。
- ボリュームを調節して音量を上げます。
- 本体の電源を切る。

スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前にボリュームを最小にしておいてください。

つないだ機器の音/映像を楽しむ

スーパーオーディオCD/CDを聞く



ご注意

- 本ページの操作はソニーのスーパーオーディオCDプレーヤーの場合です。
- スーパーオーディオCDプレーヤー、CDプレーヤーの操作について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます。詳しくは50ページをご覧ください。
  おすすめの音場プログラム：
  クラシック：HALL
  ジャズ：JAZZ
  ライブコンサート：CONCERT
- 2chで記録された音声を全てのスピーカーから出力して聞くことができます（マルチチャンネル）。詳しくは、48ページをご覧ください。

1 スーパーオーディオCDプレーヤー/CDプレーヤーの電源を入れ、ディスクをプレーヤーにセットする。

2 本機の電源を入れる。

3 リモコンのSA-CD/CDを押す。

または本体のINPUT SELECTORを押して、「SA-CD/CD」を選びます。

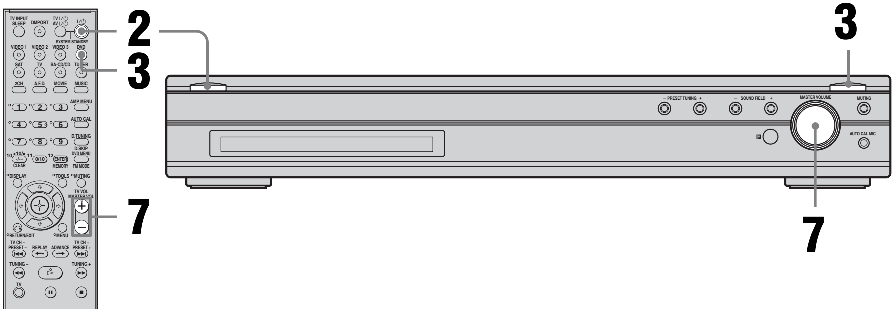
4 ディスクを再生する。

5 ボリュームを適当な音量に調節する。

6 スーパーオーディオCD/CDを聞き終わったら、ディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

次のページへつづく

DVDを見る



ご注意

- テレビ、DVDプレーヤーの操作について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- マルチチャンネルで音声が聞けない場合は、以下についてご確認ください。
  - ー 本機とDVDプレーヤーがデジタル接続されているか。
  - ー DVDプレーヤー側の音声デジタル出力が設定されているか。

ちょっと一言

- 必要に応じて再生するディスクのサウンドフォーマットを選んでください。
- 再生する映画/音楽に合わせて、お好みの音場効果を設定できます。詳しくは、50ページをご覧ください。
  おすすめの音場プログラム：
  映画：C.ST.EX
  音楽：CONCERT

1 テレビ、DVDプレーヤーの電源を入れる。

2 本機の電源を入れる。

3 リモコンのDVDを押す。

または本体のINPUT SELECTORを押して、「DVD」を選びます。

4 テレビの入力をDVDプレーヤーの映像が映るように切り換える。

テレビに映像が出ない場合は、DVDプレーヤーの映像出力がテレビに正しく接続されているか確認してください。

5 DVDプレーヤーの設定をする。

詳しくは、付属の「接続・設定ガイド」をご覧ください。

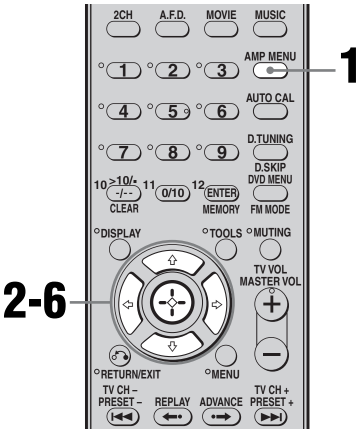
6 ディスクをDVDプレーヤーにセットし、再生する。

7 ボリュームを適当な音量に調節する。

8 DVDを見終わったら、ディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

メニューを使ってアンプを設定する

メニューを使って、本機のさまざまな設定をすることができます。



1 AMP MENUを押す。

「1-LEVEL」が表示窓に表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

3 ⊕または→を押して、メニューを表示する。

4 ↑/↓を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

5 ⊕または→を押して、設定項目のパラメーターを表示する。

6 ↑/↓を繰り返し押して、パラメーターを選ぶ。

自動的にパラメーターが確定されます。

前の表示に戻るには

←を押します。

メニューから抜けるには

AMP MENUを押します。

ご注意

- 表示窓の設定項目が暗く表示されているものは、選んだ設定項目が機能しない、あるいは変更できないことを意味します。

次のページへつづく

メニュー一覧

各メニューから以下のオプションが設定できます。メニュー操作について詳しくは、39ページをご覧ください。

メニュー [表示]	項目 [表示]	設定値	初期値
LEVEL [1-LEVEL] （42ページ）	テストトーン*1 [T. TONE]	T. TONE Y、T. TONE N	T. TONE N
	フロントスピーカーバランス*1 [FRT BAL]	BAL. L +1 ～ BAL. L +10、BALANCE、BAL. R +1 ～ BAL. R +10	BALANCE
	センタースピーカーレベル [CNT LVL]	CNT －10dB ～ CNT +10dB（1dB単位）	CNT 0dB
	サラウンドスピーカー（左）レベル [SL LVL]	SUR L －10dB ～ SUR L +10dB（1dB単位）	SUR L 0dB
	サラウンドスピーカー（右）レベル [SR LVL]	SUR R －10dB ～ SUR R +10dB（1dB単位）	SUR R 0dB
	サブウーファーレベル [SW LVL]	SW －10dB ～ SW +10dB（1dB単位）	SW 0dB
	ダイナミックレンジの圧縮*1 [D. RANGE]	COMP. OFF、COMP. STD、COMP. MAX	COMP. OFF
TONE [2-TONE] （43ページ）	フロントスピーカーの低域レベル [BASS LVL]	BASS －10dB ～ BASS +10dB（0.5dB単位）	BASS 0dB
	フロントスピーカーの高域レベル [TRE LVL]	TRE －10dB ～ TRE +10dB（0.5dB単位）	TRE 0dB
SUR [3-SUR] （43ページ）	サウンドフィールドの種類の選択*1 [S.F. SELCT]	2CH ST.、A.F.D. AUTO、DOLBY PL、PLII MV、PLII MS、MULTI ST.、C.ST.EX A、C.ST.EX B、C.ST.EX C、PORTABLE、HALL、JAZZ、CONCERT	A.F.D. AUTO
	エフェクトレベル*1*2 [EFFECT]	EFCT. MIN、EFCT. STD、EFCT. MAX	EFCT. STD
TUNER [4-TUNER] （44ページ）	FM放送局の受信モード*1 [FM MODE]	FM AUTO、FM MONO	FM AUTO
AUDIO [5-AUDIO] （44ページ）	デジタル音声入力デコードプライオリティ*1 [DEC. PRI.]	DEC. AUTO、DEC. PCM	• VIDEO 1およびVIDEO 2/BD、SAT、TV、DVD端子に入力されるデジタル音声は「DEC. AUTO」 • SA-CD/CD端子に入力されるデジタル音声は「DEC. PCM」
	二重音声モード*1 [DUAL]	DUAL M/S、DUAL M、DUAL S、DUAL M+S	DUAL M
	音声と映像出力の同期*1 [A.V. SYNC.]	A.V.SYNC. 0 ～ A.V.SYNC. 20	A.V.SYNC. 0
	デジタル音声入力の割り当て*1 [D. ASSIGN]	詳しくは、60ページをご覧ください。	
	音声入力モードの切り換え*1 [IN MODE]	詳しくは、58ページをご覧ください。	

メニュー [表示]	項目 [表示]	設定値	初期値
VIDEO [6-VIDEO] （45ページ）	HDMI音声出力の設定*1*3 [AUDIO]	AMP、TV+AMP	AMP
	HDMIコントロール機能の設定*1*3 [CONTROL]	CTRL ON、CTRL OFF	CTRL OFF
SYSTEM [7-SYSTEM] （46ページ）	フロントスピーカー（左）までの距離*1*4 [FL DIST.]	DIST. 1.0m ～ DIST. 7.0m（0.1m単位）	DIST. 3.0m
	フロントスピーカー（右）までの距離*1*4 [FR DIST.]	DIST. 1.0m ～ DIST. 7.0m（0.1m単位）	DIST. 3.0m
	センタースピーカーまでの距離*1*4 [CNT DIST.]	DIST. 1.0m ～ DIST. 7.0m（0.1m単位）	DIST. 3.0m
	サラウンドスピーカー（左）までの距離*1*4 [SL DIST.]	DIST. 1.0m ～ DIST. 7.0m（0.1m単位）	DIST. 3.0m
	サラウンドスピーカー（右）までの距離*1*4 [SR DIST.]	DIST. 1.0m ～ DIST. 7.0m（0.1m単位）	DIST. 3.0m
	サブウーファーまでの距離*1*4 [SW DIST.]	DIST. 1.0m ～ DIST. 7.0m（0.1m単位）	DIST. 3.0m
	サラウンドスピーカーの位置*1 [SUR POS.]	BEHD/HI、BEHD/LO、SIDE/HI、SIDE/LO	SIDE/LO
	表示窓の明るさ*1 [DIMMER]	0% dim、40% dim、70% dim	0% dim
A. CAL [8-A. CAL] （34ページ）	自動音場補正機能の有効/無効*1*5 [AUTO CAL]	A.CAL YES、A.CAL NO	A.CAL NO
	測定値の読み込み*1*4 [CAL LOAD]	LOAD NO、LOAD YES	LOAD YES

*1 詳しくは、カッコ内のページをご覧ください。
*2 サラウンド効果は、2chステレオおよびA.F.D. モードでは機能しません。
*3 このパラメーターを選ぶと、表示窓の「HDMI」が点滅します。
*4 A. CALメニューの「CAL LOAD」を「LOAD YES」に設定すると、測定値が■.■■mというように表示され、1cm単位で調節できるようになります。
*5 設定を選んだあと、⊕を押して確定してください。

各スピーカーのレベルやバランスを調節する

（LEVELメニュー）

LEVELメニューを使って、各スピーカーのレベルやバランスを調整できます。
メニューから「1-LEVEL」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（39ページ）、「メニュー一覧」（40ページ）をご覧ください。

LEVELメニューの設定項目

■ T. TONE（テストトーン）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節できます。詳しくは、「準備７：スピーカーのレベルとバランスを調節する」（35ページ）をご覧ください。

■ FRT BAL（フロントスピーカーバランス）

フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。

■ CNT LVL（センタースピーカーレベル）

■ SL LVL（サラウンドスピーカー（左）レベル）

■ SR LVL（サラウンドスピーカー（右）レベル）

■ SW LVL（サブウーファーレベル）

■ D. RANGE（ダイナミックレンジの圧縮）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

- COMP. OFF
  ダイナミックレンジの圧縮は行われません。
- COMP. STD
  レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
- COMP. MAX
  ダイナミックレンジを極端に狭くします。

ちょっと一言

- 「D. RANGE（ダイナミックレンジの圧縮）」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。
  「COMP. STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「COMP. MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

フロントスピーカーの音質（低域/高域レベル）を調節する

（TONEメニュー）

TONEメニューを使って、フロントスピーカーの音質（低域/高域レベル）を調節できます。
メニューから「2-TONE」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（39ページ）、「メニュー一覧」（40ページ）をご覧ください。

TONEメニューの設定項目

■ BASS LVL（フロントスピーカーの低域レベル）

■ TRE LVL（フロントスピーカーの高域レベル）

サラウンド効果を調節する

（SURメニュー）

SURメニューを使って、お好みのサウンドフィールドを選び、サラウンド効果を楽しむことができます。
メニューから「3-SUR」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（39ページ）、「メニュー一覧」（40ページ）をご覧ください。

SURメニューの設定項目

■ S. F. SELECT（サウンドフィールドの種類の選択）

お好みのサウンドフィールドを選ぶことができます。詳しくは、「サラウンド効果を楽しむ」（48ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機では、各入力で最後に選んだサウンドフィールドが次回も適用されます（サウンドフィールドリンク）。例えば、SA-CD/CD入力に対して「HALL」を選び、その後、入力を切り換えて、もう一度SA-CD/CD入力に戻っても、「HALL」が適用されます。

■ EFFECT（エフェクトレベル）

MOVIEまたはMUSICボタンを押してサウンドフィールドを選んだときの、サラウンド効果のレベルを選ぶことができます。

- EFCT. MIN
  サラウンド効果のレベルを最小にします。
- EFCT. STD
  サラウンド効果のレベルを標準にします。
- EFCT. MAX
  サラウンド効果のレベルを最大にします。

ラジオを設定する

（TUNERメニュー）

TUNERメニューを使って、FM放送局の受信モードを設定できます。
メニューから「4-TUNER」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（39ページ）、「メニュー一覧」（40ページ）をご覧ください。

TUNERメニューの設定項目

■ FM MODE（FM放送局の受信モード）

- FM AUTO
  ステレオで放送されたラジオ放送をステレオとして受信します。
- FM MONO
  放送信号に関わらず、モノラルとして受信します。

音声を設定する

（AUDIOメニュー）

AUDIOメニューを使って、お好みに合わせて音声を設定できます。
メニューから「5-AUDIO」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（39ページ）、「メニュー一覧」（40ページ）をご覧ください。

AUDIOメニューの設定項目

■ DEC. PRI.（デジタル音声入力デコードプライオリティ）

DIGITAL 音声入力端子とHDMI IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。

- DEC. AUTO
  ドルビーデジタル、DTS、
  MPEG-2 AAC、PCMの音声入力を自動的に切り換えます。
- DEC. PCM
  PCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。
  その他の信号が入力されたとき、フォーマットによっては音が出ないことがあります。その場合は、「DEC. AUTO」に設定してください。
  HDMI IN端子からの信号を選んでいるときは、接続している機器からはPCM信号のみ出力されるようになります。その他のフォーマットを受信する場合は「DEC. AUTO」に設定してください。

ご注意

- 「DEC. AUTO」に設定してCD などのデジタル音声を入力したときに、再生を始めると音が途切れる場合は「DEC. PCM」にしてください。

■ DUAL（二重音声モード）

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

- DUAL M/S（主音声/副音声）
  フロントスピーカー左から主音声、フロントスピーカー右から副音声を同時に再生します。
- DUAL M（主音声）
  主音声のみを再生します。
- DUAL S（副音声）
  副音声のみを再生します。
- DUAL M+S（主音声＋副音声）
  主音声と副音声が合成された音声を再生します。

■ A.V. SYNC.（音声と映像出力の同期）

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。0（0ミリ秒）から20（200ミリ秒）まで、1（10ミリ秒）単位で調節できます。

ご注意

- A.V. SYNC.機能は、大きな液晶ディスプレイやプラズマモニター、プロジェクターなどを使用しているときに便利です。
- A.V. SYNC.機能は、HDMI入力でマルチチャンネルPCM信号を受信しているときには機能しません。

■ D. ASSIGN（デジタル音声入力の割り当て）

特定の入力のデジタル音声入力を、他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる」（60ページ）をご覧ください。

■ IN MODE（音声入力モードの切り換え）

音声入力モードの切り換えができます。詳しくは、「デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える」（58ページ）をご覧ください。

映像を設定する

（VIDEOメニュー）

VIDEOメニューを使って、HDMIに関するさまざまな設定ができます。
メニューから「6-VIDEO」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（39ページ）、「メニュー一覧」（40ページ）をご覧ください。

VIDEOメニューの設定項目

■ AUDIO（HDMI音声出力の設定）*

本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。

- AMP
  再生機の音声は、本機につないだスピーカーからのみ出力されます。マルチチャンネルの音声はそのまま再生可能です。

  ご注意
  - テレビのスピーカーから音は出ません。

- TV+AMP
  再生機の音声は、本機につないだスピーカーと、テレビのスピーカーの両方から再生されます。

  ご注意
  - 本機で再生する音声は、チャンネル数やサンプリング周波数など、テレビの性能に依存します。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
  - 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出ないことがあります。その場合は、「AMP」に設定してください。

次のページへつづく

■ CONTROL（HDMIコントロール機能の設定）*

HDMIコントロール機能の有効/無効を設定します。

詳しくは、付属の「BRAVIA Linkガイド」をご覧ください。

* このパラメーターを選ぶと、表示窓の「HDMI」が点滅します。

システムを設定する

（SYSTEMメニュー）

SYSTEMメニューを使って、スピーカーの距離などを設定できます。
メニューから「7-SYSTEM」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（39ページ）、「メニュー一覧」（40ページ）をご覧ください。

SYSTEMメニューの設定項目

■ FL DIST.（フロントスピーカー（左）までの距離）

■ FR DIST.（フロントスピーカー（右）までの距離）

■ CNT DIST.（センタースピーカーまでの距離）

■ SL DIST.（サラウンドスピーカー（左）までの距離）

■ SR DIST.（サラウンドスピーカー（右）までの距離）

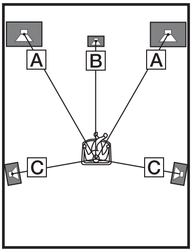
■ SW DIST.（サブウーファーまでの距離）

リスニングポジションからスピーカーおよびサブウーファーまでの距離を設定します。

ちょっと一言

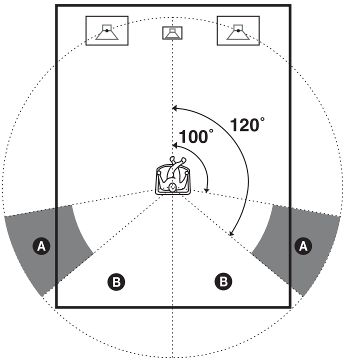
- A. CALメニューの「CAL LOAD」を「LOAD YES」に設定すると、スピーカーの距離を1cm単位で調節できるようになります。
- リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離 B は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離 A よりも1.5mより近くに設定できません。以下の図の A − B が1.5m以下になるように設置してください。
  例：A が6mのとき、B の距離は4.5m以上にしてください。
  リスニングポジションからサラウンドスピーカーまでの距離 C は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離 A よりも4.5mより近くに設定できません。以下の図の A − C が4.5m以下になるように設置してください。

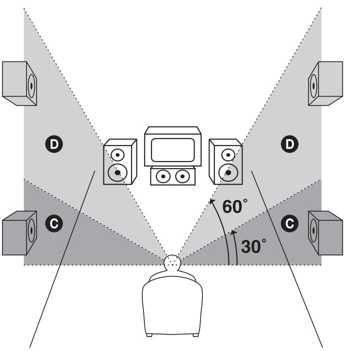
例：A が6mのとき、C の距離は1.5m以上にしてください。
これらは、スピーカーの配置を適切に行い、よりよい音で楽しんでいただくために設けた制限です。使いこなしのヒントとして、実際の距離より近くスピーカーの位置を設定すると、音が出るタイミングが遅くなり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。



■ SUR POS.（サラウンドスピーカーの位置）

シネマスタジオEXモード（51ページ）によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの位置を設定します。





- BEHD/HI
  サラウンドスピーカーの位置がBかつDの範囲にあるときに選びます。
- BEHD/LO
  サラウンドスピーカーの位置がBかつCの範囲にあるときに選びます。
- SIDE/HI
  サラウンドスピーカーの位置がAかつDの範囲にあるときに選びます。
- SIDE/LO
  サラウンドスピーカーの位置がAかつCの範囲にあるときに選びます。

ちょっと一言

- サラウンドスピーカーの位置は、シネマスタジオEXモード専用の設定です。通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置はそれほど重要ではありません。
  基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、角度が相当開いていても効果が比較的薄れません。しかしスピーカーを耳の真横に置くと効果がはっきりしなくなるため、「SIDE/LO」と「SIDE/HI」を用意しました。
  ただし、リスニング環境には壁の反射も含まれるため、スピーカーの位置が高いときは、サラウンドスピーカーがほぼ真横にあっても「BEHD/HI」に設定したほうがよい場合があります。
  実際に設定し、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりのよいほうを選んでください。迷ったら「BEHD/LO」または「BEHD/HI」に設定し、距離や音量を調節してよりよい広がり感になるようにしてください。

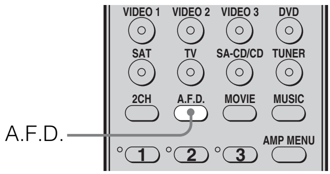
■ DIMMER（表示窓の明るさ）

表示窓の明るさを3段階で調節できます。

ドルビーデジタルやDTS のサラウンド効果を楽しむ

（AUTO FORMAT DIRECT）

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコード処理モードを選ぶことができます。



A.F.D.を繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

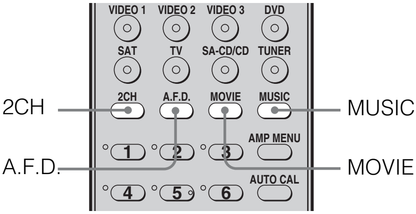
本体のSOUND FIELD ＋/－を使うこともできます。
詳しくは、「A.F.D.モードの種類」（49ページ）をご覧ください。

A.F.D.モードの種類

デコード処理モード	**A.F.D.**モード[表示]	デコード後のマルチチャンネル音声	効果
（自動判別）	A.F.D. AUTO [A.F.D. AUTO]	（自動判別）	このモードは残響などの効果を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。ただし、サブウーファーから出力される低域効果音であるLFE信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。
ドルビープロロジック	PRO LOGIC [DOLBY PL]	4チャンネル	ドルビープロロジック処理を行います。2チャンネルで記録されている音声を4.1チャンネルにデコードして再生します。
ドルビープロロジックII	PRO LOGIC II MOVIE [PLII MV]	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
	PRO LOGIC II MUSIC [PLII MS]	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
（マルチステレオ）	MULTI STEREO [MULTI ST.]	（マルチステレオ）	2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

ソニーのサラウンド効果を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールド（サラウンド効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。



MOVIEを繰り返し押して、映画用のサウンドフィールドを選ぶ。または、MUSICを繰り返し押して、音楽用のサウンドフィールドを選ぶ。

本体のSOUND FIELD ＋/－を使うこともできます。

詳しくは、「サウンドフィールドの種類」（51ページ）をご覧ください。

サウンドフィールドの種類

種類	サウンドフィールド [表示]	効果
映画用	シネマスタジオEX A DCS [C.ST.EX A]	ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。
	シネマスタジオEX B DCS [C.ST.EX B]	ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。
	シネマスタジオEX C DCS [C.ST.EX C]	ソニー・ピクチャーズエンタテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。
音楽用	ポータブルオーディオ [PORTABLE]	ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。
	コンサートホール [HALL]	長方形のコンサートホールの音響特性を再現します。
	ジャズクラブ [JAZZ]	ジャズクラブの音響を再現します。
	ライブハウス [CONCERT]	300席あるライブハウスの音響を再現します。

DCS（デジタルシネマサウンド）について

DCS マークの付いたサウンドフィールドは、DCS技術を利用しています。
DCSは、映画館での迫力あるサウンドをご家庭で楽しむために、ソニーがソニー・ピクチャーズエンタテインメントとの協力により独自に開発した劇場音響再現技術です。
DSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを結合して開発されたこの「デジタルシネマサウンド」で、ご家庭でも映画製作者が意図した理想的な音場を体感できます。

シネマスタジオEXモードについて

「デジタルシネマサウンド」の集大成ともいえるサラウンドモードです。「バーチャル・マルチディメンション」、「スクリーン・デプス・マッチング」、そして「シネマスタジオ・リバーブレーション」の3つの技術でダビングシアターの音を再現します。
仮想スピーカー技術「バーチャル・マルチディメンション」が7.1chまでの実スピーカー環境でマルチサラウンド環境を実現し、最新設備の映画館の音をご家庭のサラウンド環境で再現します。
「スクリーン・デプス・マッチング」は、フロント、センターの前方チャンネルの音に、実際の映画館と同様にスクリーン越しに再生されることによる高域の減衰と音のふくらみ、距離による音の奥行き感を付加します。
「シネマスタジオ・リバーブレーション」は、ソニー・ピクチャーズエンタテインメントのダビングスタジオをはじめとする、最新のダビングシアターや録音スタジオの音響を再現します。

次のページへつづく

ご注意

- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、ノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、直接サラウンドスピーカーから音は聞こえません。
- サンプリング周波数が48kHzより高い信号を受信しているときは、サウンドフィールドは機能しません。
- HDMI IN端子から入力されているマルチチャンネルPCM信号には、サウンドフィールドは機能しません。

ちょっと一言

- DVDソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。
  — DOLBY DIGITAL: ドルビーデジタルでエンコードされているソフト
  — DOLBY SURROUND DOLBY SURROUND: ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト
  — dts Digital Surround：DTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフト

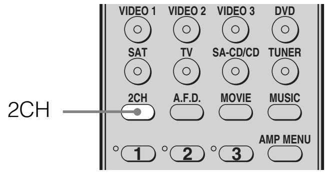
映画用/音楽用のサウンドフィールドを解除するには

2CHを押して、「2CH ST.」を選びます。または、A.F.D.を繰り返し押して、「A.F.D. AUTO」を選びます。

音声を2チャンネルで聞く

（2CH STEREO）

視聴するソフトの録音や再生機器の接続、本機のサウンドフィールドの設定に関わらず、フロントスピーカー（左/右）とサブウーファーからのみ音声を出力します。
マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。
標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。

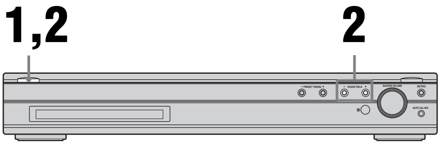


2CHを押す。

本体のSOUND FIELD ＋/－を使うこともできます。

サラウンド効果をお買い上げ時の設定に戻す

本体のボタンを使って操作してください。



1 I/⏻（電源）を押して本機の電源を切る。

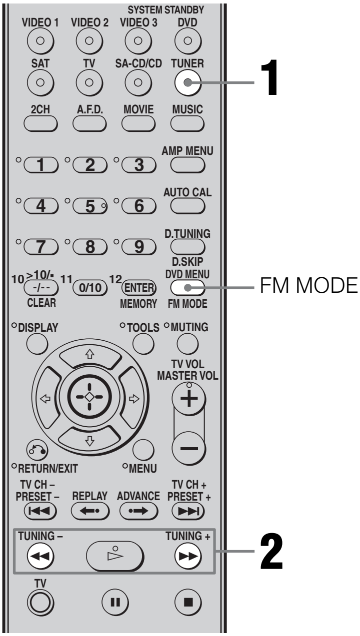
2 SOUND FIELD ＋を押しながら、I/⏻（電源）を押す。

表示窓に「S.F. CLR.」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の設定に戻ります。

FM/AMラジオを聞く

内蔵チューナーを使って、FM/AMラジオを聞くことができます。操作の前に、アンテナが接続されていることを確認してください（28ページ）。

自動で受信する



1 TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

2 TUNING ＋またはTUNING −を押す。

TUNING ＋を押すと、低い周波数から高い周波数へと放送局をスキャンします。TUNING −を押すと、高い周波数から低い周波数へと放送局をスキャンします。

放送局を受信すると自動的にスキャンを停止します。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときや、表示窓の「ST」が点滅しているときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

モノラル受信を選ぶには、以下のいずれかの操作を行ってください。

－FM MODEを繰り返し押して、表示窓の「MONO」を点灯させる。

－TUNERメニューの「FM MODE」を「FM MONO」に設定する（44ページ）。

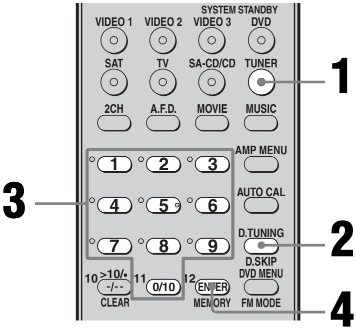
ステレオ受信に戻すには、以下のいずれかの操作を行ってください。

－FM MODEを繰り返し押して、表示窓の「MONO」を消灯させる。

－TUNERメニューの「FM MODE」を「FM AUTO」に設定する（44ページ）。

手動で受信する

数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を選んで、放送局を受信できます。



1 **TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。**

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

2 **D. TUNINGを押す。**

3 **数字ボタンを押して、聞きたい放送局の周波数を選ぶ。**

例：「88.00MHz」を選局するときは、次のように数字ボタンを押します。
8 → 8 → 0 → 0
AM放送を受信するときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

4 **ENTERを押す。**

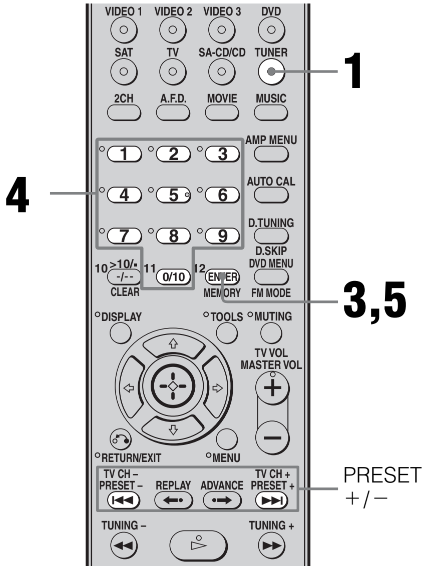
放送局を受信できないときは

正しい周波数が入力されているか確認してください。正しい周波数が入力されていない場合は、手順2 ～ 4をやり直してください。それでも放送局を受信できない場合は、入力した周波数が使われていない可能性があります。

放送局を登録する

FM局を30局とAM局を30局登録できます。よく聞く放送局を簡単に受信できるようになります。

登録する



1 **TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。**

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

2 **登録したい放送局を自動（54ページ）または手動（55ページ）で受信する。**

必要に応じてFM放送局の受信モードを切り換えてください（54ページ）。

次のページへつづく

3 MEMORYを押す。

表示窓の「MEMORY」が数秒間点灯します。
「MEMORY」が点灯している間に手順4 ～ 5を行ってください。

4 数字ボタンを押して、プリセット番号を選ぶ。

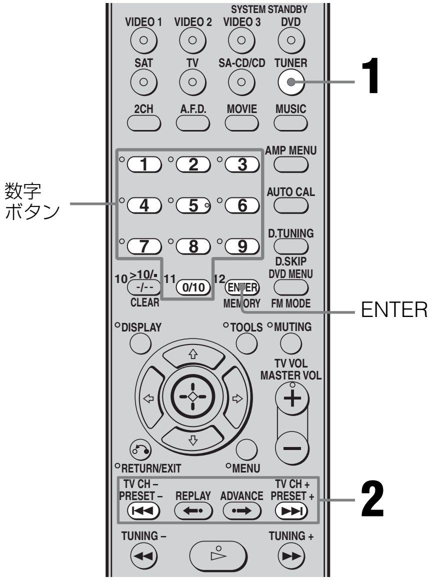
PRESET ＋またはPRESET －を押して、プリセット番号を選ぶこともできます。プリセット番号を選ぶ前に「MEMORY」が消灯してしまった場合は、手順3からやり直してください。

5 ENTERを押す。

選んだプリセット番号で放送局が登録されます。
ENTERを押す前に「MEMORY」が消灯してしまった場合は、手順3からやり直してください。

6 手順1～5を繰り返して、他の放送局を登録する。

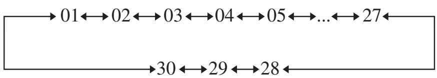
登録した放送局を聞く



1 TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

2 PRESET ＋またはPRESET －を繰り返し押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

ボタンを押すたびに、プリセット番号は以下のように切り換わります。



数字ボタンを押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶこともできます。プリセット番号を選んだあと、ENTERを押して確定してください。

本体のボタンで操作するには

1 INPUT SELECTORを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

2 PRESET TUNING ＋またはPRESET TUNING －を繰り返し押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

(IN MODE)

本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。

1 AMP MENUを押す。
「1-LEVEL」が表示窓に表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「5-AUDIO」を選ぶ。

3 ⊕または→を押して、メニューを表示する。

4 ↑/↓を繰り返し押して、「IN MODE」を選ぶ。

5 ⊕または→を押して、設定項目のパラメーターを表示する。

6 ↑/↓を繰り返し押して、音声入力モードを選ぶ。

前の表示に戻るには

←を押します。

音声入力モード

■ AUTO IN

デジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。
デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。

■ HDMI IN

HDMI端子への音声入力が常に選ばれます。

■ COAX IN

DIGITAL COAX IN端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。

■ OPT IN

DIGITAL OPT IN端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。

■ ANALOG

AUDIO IN（L/R）端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意

- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。

デジタルメディアポートを使う

（DMPORT）

デジタルメディアポートを使って、携帯用ミュージックプレーヤーなどの音楽を楽しむことができます。
デジタルメディアポートアダプター＊（別売り）をつなぐと、本機につないだ機器の音楽を聞くことができます。
詳しくは、デジタルメディアポートアダプターの取扱説明書をご覧ください。

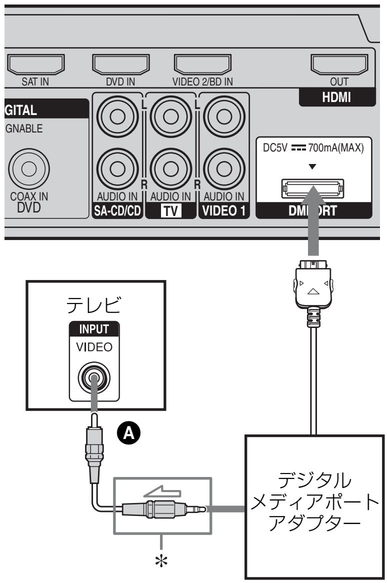
＊ デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

ご注意

- デジタルメディアポートアダプター以外の機器をつながないでください。
- 本機の電源が入っているときに、デジタルメディアポートアダプターをつないだり、抜いたりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプターによっては、映像出力ができないものがあります。

デジタルメディアポートアダプターをつなぐ

デジタルメディアポートアダプターをDMPORT端子につないで、デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器の音楽を聞くことができます。
また、デジタルメディアポートアダプターの映像出力とテレビの映像入力をつないで、映像をテレビで見ることもできます。



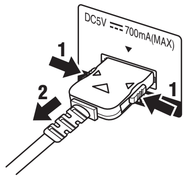
＊ デジタルメディアポートアダプターによって、コネクターの種類が異なります。
詳しくは、デジタルメディアポートアダプターの取扱説明書をご覧ください。

Ⓐ 映像コード（別売り）

その他の操作をする

次のページへつづく

デジタルメディアポートアダプターをDMPORT端子から取りはずすときは



両側を押しながら、引き抜いてください。

ご注意
- デジタルメディアポートアダプターをつなぐときは、▼マークの向きを合わせてください。
- コネクターはしっかりとまっすぐに差し込んでください。
- デジタルメディアポートアダプターのコネクターは壊れやすいため、本機を設置または移動するときは、取り扱いに充分注意してください。

本機につないだ機器を再生する

1 DMPORTを押す。

本体のINPUT SELECTORを使って、「DMPORT」を選ぶこともできます。

2 つないだ機器の再生を始める。

つないだ機器の音楽が本機で再生されます。
操作について詳しくは、デジタルメディアポートアダプター（別売り）の取扱説明書をご覧ください。

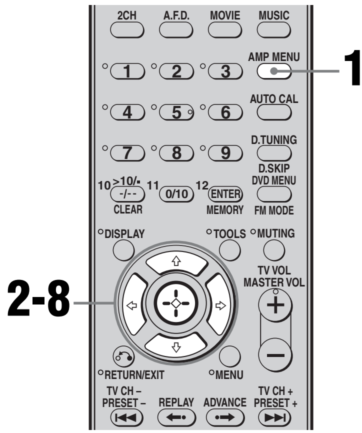
ご注意
- デジタルメディアポートアダプターの種類によっては、リモコンで本機につないだ機器を操作できます。リモコン操作について詳しくは、14ページをご覧ください。

ちょっと一言
- 本機につないだ携帯用ミュージックプレーヤーで、MP3音声トラックや、その他の圧縮されたソースを聞くときに、音を増強することができます。MUSICを繰り返し押して、「PORTABLE」を選んでください（51ページ）。

選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる

（DIGITAL ASSIGN）

OPTICALやCOAXIALのデジタル音声入力端子を持っている入力（VIDEO 1 OPT IN、DVD COAX IN）を使っていないときに、他の入力に割り当てることができます。
例：DVDプレーヤーを本機のOPT IN端子につないで、デジタル音声入力のソースにする場合
- DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を本機のVIDEO 1 OPT IN端子につなぎます。
- 「D. ASSIGN」の設定で「VD1 OPT」を「VD1-DVD」に割り当てます。



1 AMP MENUを押す。

「1-LEVEL」が表示窓に表示されます。

2 ⬆/⬇を繰り返し押して、「5-AUDIO」を選ぶ。

3 ⊕または➡を押して、メニューを表示する。

4 ↑/↓を繰り返し押して、「D. ASSIGN」を選ぶ。

5 ⊕または→を押して、設定項目のパラメーターを表示する。

6 ↑/↓を繰り返し押して、空いているデジタル音声入力（例：「VD1 OPT」）を選ぶ。

7 ⊕または→を押して、確定する。

8 ↑/↓を繰り返し押して、手順6で選んだデジタル音声入力を割り当てたい入力（例：「VD1-DVD」）を選ぶ。

割り当てができる入力は、各デジタル音声入力によって異なります。詳しくは、「デジタル音声入力に割り当てできる入力」（61ページ）をご覧ください。

前の表示に戻るには

←を押します。

デジタル音声入力に割り当てできる入力

お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

デジタル音声入力 [表示]	割り当てできる入力	表示
VIDEO 1 OPT IN [VD1 OPT]	VIDEO 1	VD1-VD1
	VIDEO 2/BD	VD1-VD2
	DVD	VD1-DVD
	SAT	VD1-SAT
	SA-CD/CD	VD1-CD
DVD COAX IN [DVD COAX]	VIDEO 1	DVD-VD1
	VIDEO 2/BD	DVD-VD2
	DVD	DVD-DVD
	SAT	DVD-SAT
	SA-CD/CD	DVD-CD

ご注意

- 同じ入力に複数のデジタル音声を同時に割り当てることはできません。
- 他の入力に割り当てられたデジタル音声入力は、もとの入力で使うことはできません。
- デジタル音声入力を割り当てると、IN MODEの設定が必要になる場合があります（58ページ）。
- デジタル音声入力をTUNERおよびDMPORTに割り当てることはできません。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。

SLEEPを繰り返し押す。

SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

2-00-00 → 1-30-00 → 1-00-00 → 0-30-00 → OFF

スリープタイマーが働いているあいだは、表示窓が薄暗くなり、「SLEEP」が点灯します。

ご注意

- スリープタイマーが働いているあいだに、リモコンや本体のボタンを押すと、表示窓が明るくなります。何もボタンを押さずにしばらくすると、表示窓はまた薄暗くなります。

ちょっと一言

- スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、SLEEPを押します。表示窓に残り時間が表示されます。もう一度SLEEPを押すと、スリープタイマーが解除されます。

お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する

お使いのソニー製機器に合わせて、入力切り換え用ボタンの設定を変更することができます。
例：DVDレコーダーをVIDEO 1端子につないだとき、VIDEO 1ボタンでDVDレコーダーを操作できるように設定する。

1 設定したい入力の入力切り換え用ボタンを押し続ける。
例：VIDEO 1ボタンを押し続ける。

2 次の表を参照して、設定したい機器のボタンを押す。
例：数字ボタンの4を押す。
VIDEO 1ボタンでDVDレコーダーを操作できるようになります。

機器	ボタン
ビデオデッキ（リモコンモード：VTR 3）*1	1
ビデオデッキ（リモコンモード：VTR 2）*1	2
DVDプレーヤー / DVDレコーダー（リモコンモード：DVD1）*2	3
DVDプレーヤー / DVDレコーダー（リモコンモード：DVD3）*2	4
CDプレーヤー	5
衛星放送チューナー *3	6
ケーブルテレビ（CATV）チューナー *3	7
BSデジタルチューナー / デジタルCSチューナー *3	8
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンモード：BD1）*4	9
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンモード：BD3）*4	0/10
テレビ	-/--
なし（設定しない）	ENTER/MEMORY

*1 ソニー製ビデオデッキはVTR 2またはVTR 3で操作でき、それぞれ、8mmビデオ、VHSに対応しています。
*2 DVD1およびDVD3について詳しくは、DVDプレーヤーまたはDVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
*3 お使いの機種によっては、本機のリモコンでは操作できない場合があります。
*4 BD1およびBD3について詳しくは、ブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

リモコンに登録した設定を消すときは

I/⏻、DMPORT、MASTER VOL －を同時に押す。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

用語集

■ サンプリング周波数

音声などをアナログデータからデジタルデータへ変換するとき、数字に置き換える必要があります。この作業をサンプリングと呼び、1秒間に記録する回数をサンプリング周波数といいます。音楽CDの場合、1秒間に44,100回記録しており、サンプリング周波数を44.1kHzと表します。一般的には、サンプリング周波数が高いほど、記録された音声は高音質になります。

■ ドルビーサラウンド（プロロジック）

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ2chの中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに4chサラウンドで出力します。DVDビデオでは最も一般的な音声処理方法です。

■ ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声デジタル圧縮技術です。その1つである5.1チャンネルドルビーチャンネルはフロント（L/R）、センター、サラウンド（L/R）、サブウーファーで構成され、DVDビデオの標準音声フォーマットにも採用されています。

■ ドルビープロロジックII

2chステレオで記録された音声を5.1chに変換して再生します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードの2種類があります。従来のステレオで録音された古い映画も、5.1chの迫力で再現します。

■ DTSサラウンド

DTS社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率で記録し、より高音質で再生します。

■ HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

テレビ接続機器のデジタル映像/音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応しています。

■ TSP（Time Stretched Pulse）信号

TSP信号は、短い時間の中に低域から広域までの広い帯域にわたって、高密度にエネルギーが詰められた測定信号です。
一般的な室内環境で測定精度を確保するためには、測定信号のエネルギー量が重要であり、TSPを使うことで、効果的に測定を行うことができます。

■ x.v.Color

x.v.Colorとは、xvYCC規格の親しみやすい呼称としてソニーが提案している商標です。
xvYCC規格とは、動画色空間の国際規格のひとつです。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できます。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

音声

どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない

→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
→ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。
→ MASTER VOLUMEが「VOL MIN」に設定されていないか確認する。
→ リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。
→ 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTOR）で正しい入力が選ばれているか確認する。
→ 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
→ IN MODEが正しく設定されているか確認する。

選んだ機器から音が出ない

→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。
→ 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
→ 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTOR）で正しい入力が選ばれているか確認する。

片方のフロントスピーカーから音が出ない

→ アナログ機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。音声コード（別売り）を使ってL/R両方の端子に接続してください。

HDMIに入力しているソースの音が本機に接続したテレビから出ない

→ VIDEOメニューの「AUDIO」の設定を確認する（45ページ）。
→ HDMI接続を確認する。
→ HDMI接続では、スーパーオーディオCDは聞けません。
→ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
→ LEVELメニューにあるバランスパラメーターを調節する（42ページ）。

ハム音またはノイズがひどい

→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
→ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m離れているか確認する。
→ オーディオ機器をテレビから離して設置する。
→ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

本機に接続した機器の電源を入れるとノイズがする

→ 機器を接続した入力が、AUDIOメニューの「IN MODE」で「AUTO IN」に設定されていないか確認する（58ページ）。

センター/サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない

→ シネマスタジオEXモードを選ぶ（51ページ）。
→ スピーカーの音量を調節する（35ページ）。
→ スピーカーが正しく接続されているか確認する。

サブウーファーの音が出ない

→ サブウーファーが正しく接続されているか確認する。

次のページへつづく

サラウンド効果が得られない

→ サウンドフィールドが働いているか確認する（MOVIEまたはMUSICを押す）。
→ サンプリング周波数が48kHzより高い信号を受信しているときは、サウンドフィールドは機能しません。

ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。
→ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。

映像

テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない

→ 接続した機器の映像出力がテレビに接続されているか確認する。
→ オーディオ機器をテレビから離す。

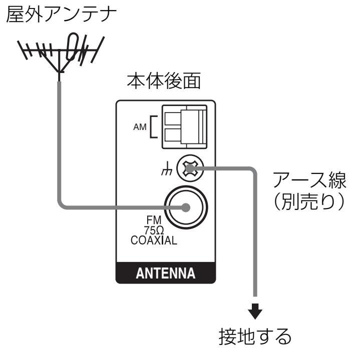
HDMIに入力しているソースの映像が本機に接続したテレビから出ない

→ HDMI接続を確認する。
→ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。

ラジオ

FM放送の受信状態が悪い

→ 75Ω同軸ケーブル（別売り）を使って、下図のように本機と屋外アンテナをつなぐ。本機と屋外アンテナをつなぐ場合は、避雷のため、アース線を使って接地してください。ガス爆発を防ぐため、アース線をガス管に接続しないでください。



放送局が受信できない。

→ アンテナが正しくつながれているか確認する。アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使ったりする。
→ 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する（55ページ）。
→ 受信している周波数を確認する。
→ プリセットしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（55ページ）。

リモコン

リモコンで操作できない

→ DISPLAYボタンは、TUNERが選ばれているときのみ、本機の操作に使うことができます。
→ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。
→ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。
→ リモコンの乾電池を交換する。
→ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。

→ リモコンのVIDEO 3ボタンは、本機の操作には使えません。

エラーメッセージ

本機が正しく動作していないとき、表示窓にエラーメッセージが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下をご覧のうえ、表示に合った対応をしてください。2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

自動音場補正の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、「エラーが出たときは」（32ページ）をご覧のうえ、表示に合った対応をしてください。

PROTECT

→ スピーカー出力に異常な電流が流れています。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。スピーカーの接続を確認し、再度電源を入れてください。

その他の症状が出たときは

本機を初期設定状態にしてください（29ページ）。すべての設定がお買い上げ時の状態に戻りますので、再設定が必要になります。

それでも正常に動作しないときは

お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお問い合わせください。修理の際に部品を交換した場合、交換した部品は回収させていただきます。

本機の設定をリセットするための参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	29ページ
調節したサウンドフィールド	53ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-SF2000
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

定格出力
ステレオモード　108W + 108W
(1kHz、THD 1%、3Ω)
実用最大出力*
サラウンドモード　RMS出力
(3Ω、JEITA**)
フロント部：143W（1チャンネルあたり）
センター部：143W
サラウンド部：143W（1チャンネルあたり）
(1.5Ω、JEITA**)
サブウーファー部：265W
サウンドフィールドやソースによっては出力しない場合があります。

入力
アナログ　感度：1V/50kΩ
デジタル（同軸）インピーダンス：75Ω
トーン
増幅率　±10dB（0.5dB単位）
周波数特性　28～20,000kHz

FMチューナー部

受信周波数　76.0－90.0MHz
中間周波数　FM：10.7MHz

AMチューナー部

受信周波数　531－1,602kHz（9kHz間隔）
中間周波数　450kHz

電源、その他

電源　AC100V、50/60Hz
電源出力（デジタルメディアポート）
DC OUT：5V、700mA（最大）
消費電力　150W
消費電力（スタンバイ時）
0.3W（VIDEOメニューの「CONTROL」が「CTRL OFF」に設定されているとき）
最大外形寸法　430×66.5×333mm（幅/高さ/奥行き、最大突起部を含む）
質量　約3.6kg

スピーカー

• フロントスピーカー（SS-MSP2200）

方式　2ウェイ、バスレフ型、防磁型
使用ユニット　65mmコーン型、25mmドーム型ツイーター
定格インピーダンス
3Ω
最大外形寸法　92×538×74mm（幅/高さ/奥行き）
300×1,229（最大）×300mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含む）
質量　約1.2kg
約3.0kg（スタンド含む）

•センタースピーカー（SS-CNP2200）

方式　フルレンジ、バスレフ型、防磁型
使用ユニット　65mmコーン型
定格インピーダンス
3Ω
最大外形寸法　260×91×80mm（幅/高さ/奥行き）
質量　約0.6kg

•サラウンドスピーカー（SS-SRP2200）

方式　フルレンジ、バスレフ型
使用ユニット　65mmコーン型
定格インピーダンス
3Ω
最大外形寸法　92×538×74mm（幅/高さ/奥行き）
300×1,229（最大）×300mm（幅/高さ/奥行き）（スタンド含む）
質量　約1.0kg
約2.8kg（スタンド含む）

•サブウーファー（SS-WP2200）

方式　バスレフ型、防磁型
使用ユニット　160mmコーン型
定格インピーダンス
1.5Ω
最大外形寸法　196×320×400mm（幅/高さ/奥行き）（フロントパネル含む）
質量　約5.6kg

*　JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。
** JEITA（電子情報技術産業協会）

次のページへつづく

同梱物

- フロントスピーカー（2）
- センタースピーカー（1）
- サラウンドスピーカー（2）
- サブウーファー（1）
- FMワイヤーアンテナ（1）
- AMループアンテナ（1）
- リモコン（RM-AAU019）（1）
- 単3形乾電池（2）
- 測定用マイク（ECM-AC2）（1）
- スピーカーコード （5）
- 光（OPTICAL）デジタル接続コード（1）
- スピーカーパッド
  センタースピーカー用（4）
  サブウーファー用（4）
- スピーカースタンド　ポール（4）
- スピーカースタンド　スピーカー台（4）
- ネジ（銀）（8）
- ネジ（黒）（8）
- スピーカースタンド設置ガイド
- 接続・設定ガイド
- BRAVIA Linkガイド

本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- はんだ付け部に無鉛はんだを使用
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- スピーカー外装にポリ塩化ビニルを不使用
- RoHS指令（欧州環境規制）に対応済み

索引

あ行
アンテナ
　接続する　28
衛星放送チューナー/STB
　接続する　24
エラーメッセージ　67
選ぶ
　機器　36
　サウンドフィールド　50
お手入れ　8

さ行
サウンドフィールド
　選ぶ　50
　お買い上げ時の設定に戻す　53
自動音場補正機能　30
消音機能　36
初期設定状態　29
スーパーオーディオCDプレーヤー
　再生する　37
　接続する　23
スピーカー
　接続する　21
　設置する　18
スリープタイマー　62

た行
デジタルメディアポートアダプター
　接続する　59
テレビ
　接続する　24
ドルビーデジタル　64

は行
ビデオデッキ
　接続する　24
ブルーレイディスクレコーダー
　接続する　26

ま行
メニュー
　AUDIOメニュー　44
　A. CALメニュー　34
　LEVELメニュー　42
　SURメニュー　43
　SYSTEMメニュー　46
　TONEメニュー　43
　TUNERメニュー　44
　VIDEOメニュー　45

ら行
ラジオ
　自動で受信する　54
　手動で受信する　55
　登録した放送局を聞く　56

A-Z、0-9
A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）48
CDプレーヤー
　再生する　37
　接続する　23
DCS（デジタルシネマサウンド）51
DIGITAL ASSIGN　60
DVDプレーヤー
　再生する　38
　接続する　24
DVDレコーダー
　接続する　24
HDMI
　接続する　26
IN MODE　58
TEST TONE　35
2チャンネル　52
2CH STEREO　52
5.1チャンネル　18

よくあるお問い合わせ、解決方法などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話･PHS･一部のIP電話‥‥ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話･PHS･一部のIP電話‥‥ 0466-31-2531

※取扱説明書･リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」＋「♯」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389 **受付時間** 月～金：9:00～20:00 土・日・祝日：9:00～17:00

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/

3210806O2 (2)

Sony Corporation Printed in Malaysia